秋の特集 糸島の「食」を考える

食べて学ぶ「生きる力」

食べることは、私たちが生きていくために必要なことです。「何をどのように食べるのか」……子ども時代の日々の食生活は、子どもたちが将来を生きていく上で大きな影響を与えます。

市内の学校給食に使われる地元食材の割合は、約60・9％。子どもたちが地元の食材を口にするとき、その色や香り、味わいを五感で体感することは、生きる力を体得する大きな力となります。

給食に地元食材を積極的に使うこと

●高水準の地産地消率

子どもたちが、学校生活の中で「食」を身近に感じるものといえば、給食です。

市では、地域の農家や生産グループなどの協力を得ながら、学校給食での地域食材の利用を進めています。

市内の学校給食の地産地消率は、米100％を含め約60・9％（平成22年度4月から7月までの実績）。

県内でも高水準の地産地消率となっています。

●「食」への感謝をはぐくむ

地元の食材を給食に積極的に使っていることは、学校通信などで子どもや保護者に伝えられています。

子どもたちは、地元の食材がおいしいことを体感し、またそれを作る生産者の顔もよく知っています。

自分のお腹を満たし、体を作る食べ物が、地元で育てられ、栽培する人や作業を知ることで「食」に対する感謝の気持ちも育ちます。

栽培や調理、五感を使い「食」を学ぶ

●「食育」で生きる力づくり

学校によっては、毎月19日の「食育の日」などに、子どもたちに「食」についての学習を進めています。食育の日の献立に、地元でとれる食材を使ったり、スープに星型やハート型に切ったニンジンを入れるなど「食」を楽しくする取り組みも行っています。

「食」をいろいろな角度から学ぶことは、子どもたちが自分自身の心と体を守る大きな力となるのです。

●「栽培」から「食」を学ぶ

市内の小学校のほとんどで、学校菜園や近くの水田などを使った農業体験を学習に取り入れています。

特に米の栽培では、田植えから稲刈りまでを行い、稲の生育とともに変わる周囲の自然も観察しています。

農業体験は、ゲストティーチャーに地元の農業者を招いたり、地元の人たちの協力を得ながら行われます。

子どもたちは農業体験を通して地域のみなさんとの交流を深め、農業に触れることで、地域の自然についても学んでいきます。

●「調理」から「食」を学ぶ

市内には「お弁当の日」の取り組みを行う小学校もあります。事前に栄養バランスなどを学び、自宅で自分の力でお弁当を作り、お昼に会食するというものです。

実際に調理し、それを食べることで、子どもたちが食に関心を持ち、健康な食生活を送るための意識づけをする取り組みです。

どの食材を選び、どのように調理したらおいしく食べられるのか。また、毎日の食事を作る家族への感謝の気持ちもはぐくまれます。

可也小学校では、PTAのゲストティーチャーが、育苗から田植え、稲刈りまでを5年生の子どもたちに指導。もちつきも行い、収穫の喜びも体験している

親子で収穫の喜びを体験する収穫祭

●自分と家族のために学ぶ

「食育」は、子どもだけに必要な学習ではありません。

「食」は私たちが生きるために必要なものです。どの食材を選び、どう調理し、誰とどう食べるのかで、心と体の満足度も変わります。

自分や家族の心と体の健康のためにも「食育」を学び、これを意識した生活をしていくことはたいせつです。

●いただきます糸島の恵み

市では、秋の実りを喜ぶ「なんでも糸島　収穫祭」を開催します。収穫祭に登場する食材は、地元でとれた安全でおいしい旬のものばかり。

また収穫祭では、そば打ちやサツマイモ掘りなど、いろいろな食の体験ができ、糸島の食の魅力が満載です。

この機会に、収穫祭で糸島の秋の恵みを親子で楽しみ、食のたいせつさを学びませんか。みなさんの来場をお待ちしています。

生産農家にインタビュー

井田原有機農業栽培研究会
平野　壹世（いつよ）さん（志摩吉田）

地元の野菜で子どもたちの「食」への学習を深める

志摩の朝市の女性グループで井田原有機農業栽培研究会を立ち上げ、学校給食に地元の野菜を入れ始めたのは昭和63年でした。当時としては珍しい取り組みでしたが、志摩町保健課（当時）からの勧めもあり始まりました。

最初は、町からの支援で先進地の視察や研修などをしていましたが、しばらくすると多くの団体から視察を受ける立場になっていました。

取り組みが進むに従い、子どもたちと交流する機会が増えました。栄養士さんと一緒にゲストティーチャーとして野菜作りの話をしたり、学校菜園の指導をするなど、子どもたちとの距離も縮まりました。給食を残す子どもも減り、食べ物への感謝の念も深まったようです。

現在の課題は、後継者。取り組みを始めて20年が過ぎ、農業後継者が少ない中で一昨年に2人参加してくれました。しかし、活動を継続することが厳しい状況です。せっかくの取り組みです。市民のみなさんの参加と行政からの支援があると助かります。

この取り組みは九州農政局長賞を受賞し、市長に報告されました

糸島の農力と……大地の恵みを堪能 なんでも糸島 収穫祭

日程　11月6日（土）・7日（日）の2日間

会場　農業公園ファームパーク伊都国

昨年の収穫祭の様子、長い巻きずしに挑戦

秋…大地の恵みを感じる収穫の季節です。糸島には、豊かな農畜産物がたくさんあります。

ファームパーク伊都国では、11月6日（土）・7日（日）の2日間、秋の収穫を楽しむ「なんでも糸島　収穫祭」を開催します。

この日は、採れたて新鮮な農産物の直売はもちろん、糸島の農力（農業の力）を体験できるさまざまな催しが盛りだくさん。

みなさんお誘い合わせの上お越しください。

イベント内容

- 青空市
- 収穫体験
- 一日体験講座
- 陶芸体験
- 野外レストランなど

※詳しくは、次号の広報でお知らせします。（内容変更の場合もあり）

問い合わせ
ファームパーク伊都国
☎（322）7661
※毎週月曜日は休館日
（月曜日が祝日のときは翌日が休館日）